なかがわ 広報

2013. 6

No.93

●インターネットを利用した選挙運動が可能に　2
●「防災告知端末電話機」を加入者宅に設置します　3
●産学官連携新商品デザイン事業参加事業者を募集　5
●第11回花の風まつり　6
●町の栄養相談をご活用ください！　11

ホームステイウィークエンドin那珂川

（7ページ）

広報展示室 Koho Gallery 第93回

春季特別展 －ゴッホに愛された花魁－溪斎英泉展

「藍 摺 絵」

「ヒロシゲブルー」という言葉を、皆さんは聞いたことがあるでしょうか。風景画で知られる歌川広重は、空や海に鮮やかで発色の良い藍色を効果的に使いました。欧米ではその藍色の美しさが高く評価され、これが「ヒロシゲブルー」と呼ばれているのです。

広重が使っていたこの藍は合成顔料で、ドイツのベルリンで発見されたことから「ベルリンブルー」、あるいはドイツの旧名のプルシアに由来して「プルシアンブルー」という名で呼ばれています。日本では江戸時代、「唐藍」あるいは、「ベルリン藍」がなまって「ベロ藍」、あるいは「ベロ」「ヘロリン」などと呼ばれていました。

「ヒロシゲブルー」と呼ばれ、広重の代名詞ともなっているベロ藍ですが、この色を最初に浮世絵の一枚絵に取り入れたのは溪斎英泉（けいさいえいせん）でした。当時書かれた随筆によると、英泉が団扇用に描いた山水画と隅田川の風景を、文政13年（1830）にベロ藍の濃淡で摺り上げたのがその始まりだということです。

ベロ藍はそれまで青色として用いられていた本藍と違って鮮やかで透明感があり、伸びのよい絵の具でした。容易に濃淡がつけられ、水や空気の表現に適していたため、ここから風景画が飛躍的に発達することになります。広重の「東海道五拾三次」や葛飾北斎の「冨嶽三十六景」といった風景画の名品も、ベロ藍の登場によって生まれたものです。

人々はこの新しい藍色の美しさに魅了され、天保（1830－44）初期には藍一色で摺り出す藍摺絵のブームが起こりました。ベロ藍のパイオニアである英泉もこの時期、多くの藍摺絵を作成しています。

「五節美人合之内 昼世界」
千葉市美術館蔵

図は、その英泉の藍摺絵の一枚で、「五節美人合之内昼世界」という作品です。端午の節句の妓楼の様子で、菖蒲を持つ遊女が描かれています。昼なので客もまばらで暇なのでしょう。のんびりとした空気が伝わってきます。五月といえば当時は夏の暑い時期ですが、藍で摺ることによって涼しげな作品に仕上がっています。

馬頭広重美術館　主任学芸員　長井裕子

【会　　期】 後期　6月30日（日）まで
【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで
（但し入館は4時30分まで）
【休 館 日】 月曜日
【入 館 料】 大　　人　700円（630円）
高・大学生　400円（360円）
※（ ）は20名以上の団体料金。
※70歳以上、中学生以下は無料。
※障害者手帳をお持ちの方・付き添い1名は半額

平成24年度　那珂川町観光写真コンテスト 受賞作品

下野新聞社賞「幸を願って」
山中ヒロ子さん（宇都宮市）
撮影場所：鷲子山上神社

鷲子山上神社にて、家族の微笑ましい幸を願っての親子の絆に感動して、シャッターを押させて頂きました。（山中さん）

入選「位置について！」
岡典子さん（北向田）
撮影場所：若鮎大橋下

後ろ向きで無心に水面を凝視しているサギたち、そして横に並んでいる面白さに魅かれ、思わず苦笑しながらシャッターを押しました。（岡さん）